

將、四條少將、土御門左馬助、内藏頭、藤侍、從冷泉侍、從舟橋式部少輔等也。

〔江戸總鹿子江都年中行事〕八月朔日、今日をたのむの祝と號して、後深草天皇、建長のころより

はじめるとも云、又後嵯峨の帝より起るともあり、但し東武にては上下ともに、別して佳節とし

て祝ふべき日也、天正十八年八月朔日、台駕家源始て東都に入らせたまひしよりぞ、萬代不易の

地と成、今日此太平の國となりて、鼓腹して樂しむにあらずや、五節句の祝義より、わけていわる

ことぶくべき日也、御當地開闢の日なれば、誰か祝し奉らざらんや、

〔武江年表〕天正十八年庚寅、今年八月一日、台駕はじめて江戸の御城へ入らせ給へり、そのこ

ろは、御城の邊葦沼、汐入等の地にして、田畠も多からず、農家寺院さへ所々に散在せしを、慶長に

至り、始て山を裂地をならし、川を埋め、溝を堀、士民の所居を定め給ひしより、萬世不易の大都會

とはなれり、玄かりしよりこのかた、萬民干戈の危きを忘れ、鼓腹して娛みを極め、泰平の御恩澤

に浴し奉るのありがたき事、申も中々おろかなるべし、中古より八月一日を田の實と號して佳節とす、わけて今年御打入、八月一日なる

故、毎年八朔の御祝儀、五度の佳節と等しく、御嘉例となりしとぞ。

〔故實拾要五〕將軍家利氏御馬獻上、是每歲自將軍家八朔ニ御馬獻上也、左右馬寮、件ノ御馬ヲ清

涼殿ノ南庭ニ立牽之備、天覽、事終テ是ヲ納寮、

〔夏山雜談〕八朔ニ禁中へ大樹ヨリ御馬御太刀ヲ進ゼラル、此時之御太刀ハ禁裏ノ御物ヲ借用

セルナリ、其次ノ日御太刀代トシテ鳥目ヲ納ラル、ナリ、是又室町家ノ時ヨリノ事ナリト、公物

ノ御太刀ヲ借用ヒラル、事モ古例ニテ秘藏ノコトナリトイヘリ、

頭注、室町將軍家ノ時公物ノ太刀ヲ借用ラル、コト、おゆどの、記ニミヘタリ、

〔高貴八朔考〕一八朔の駒牽といふは、古しへ國々の御牧より貢の駒を獻じ、左右馬寮にて其事を

掌れる事、延喜式、江家次第、其餘の舊記に詳なり、○中當家の世となり、慶長八年將軍宣下ありて、

幕府獻馬